

4 - 23 最近の関東・東海地域における地震活動 (1979年7 - 10月)

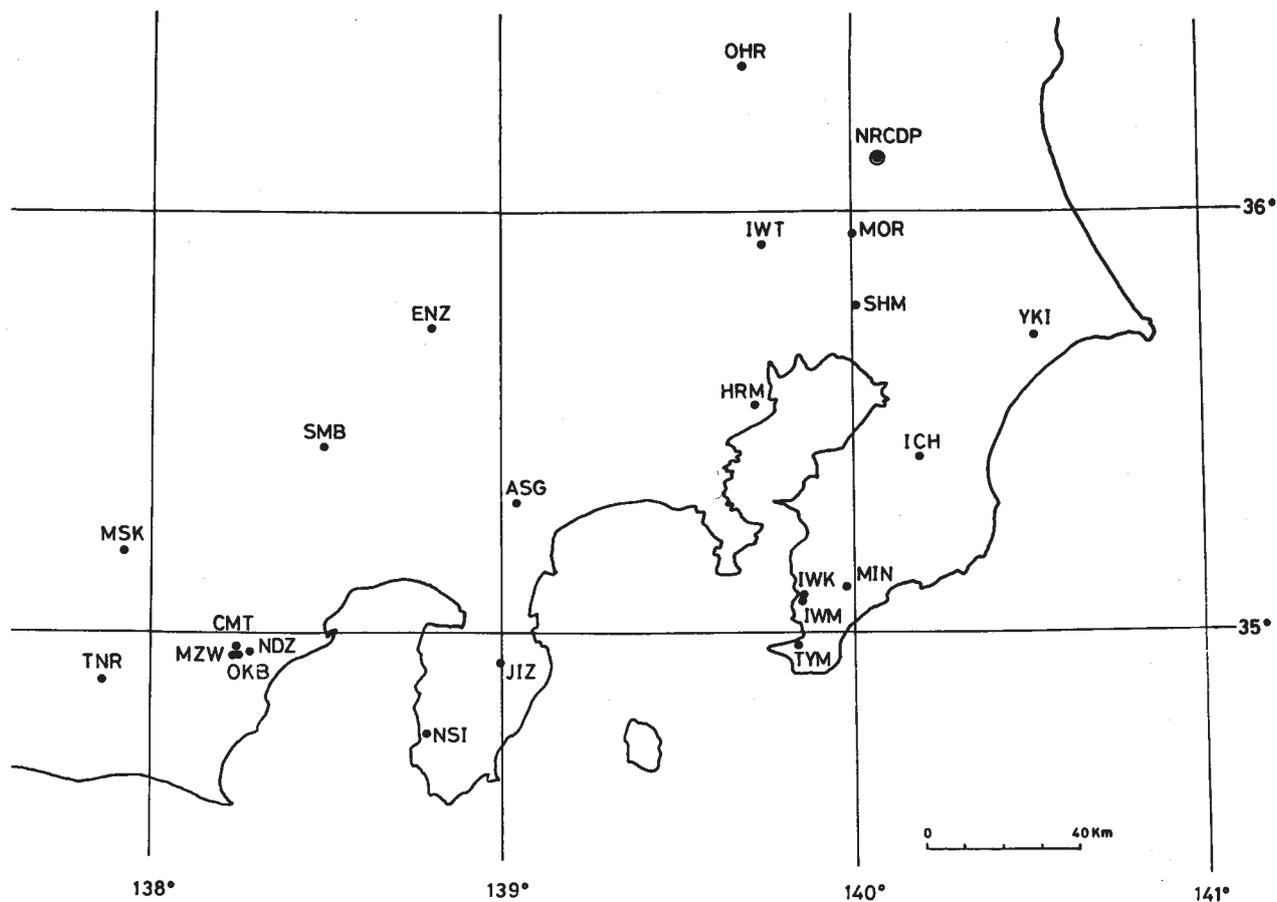
Recent Seismic Activities in the Kanto-Tokai Area (July-October, 1979)

国立防災科学技術センター
National Research Center for Disaster Prevention

第1図は現在稼動している防災センターの観測点配置とステーションコードを示している。第2図はこれ等観測点での日別地震回数を示している。大平(OHR)観測点においては自然地震のほかに多数の人工発破が含まれていてその数は30%位と予想される。中伊豆(JIZ)では地震回数のピークが3月と5月にあるがいずれも伊豆半島東岸の川奈崎付近の地震活動に対応している。気象庁によれば3月のピーク時で最大マグニチュードは3.1があり5月には最大マグニチュードは3.8があった。全体として見ると中伊豆の地震回数は1979年初めに比べれば、わずかではあるが減少しつつある。他の観測点においては特筆すべき地震回数の変化はない。

第3図は1979年現在でとらえられる地震の範囲を示したものである。図には、マグニチュード2以上の深さ30 km以浅の地震が、2観測点以上でとらえられる範囲と5観測点以上の場合の範囲が示してある。現在のデータ処理の仕方は、5以上の観測点でP波初動が得られた場合にP波初動のみから気象庁で採用しているP波走時表を用いて震源を決定している。従ってマグニチュード2以上の浅い地震は第3図の $N \geq 5$ と記入された範囲では震源決定されていることになる。

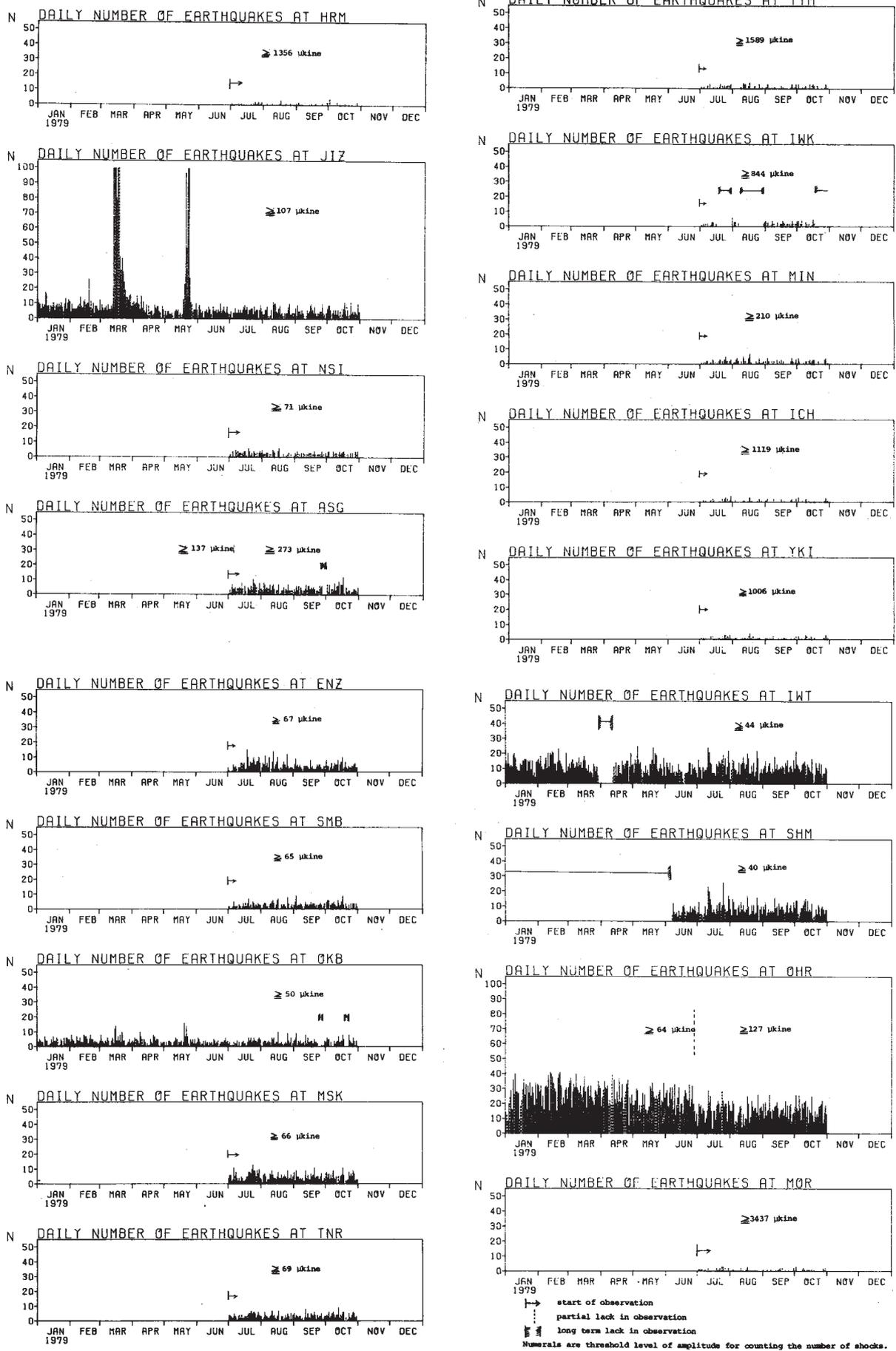
第4図は防災センター観測網により求められた1979年7 - 10月の震源分布図である。今後のデータの蓄積を待って地震発生の時空間分布等を研究する計画であるが、ここでは簡単に顕著なクラスターについてのべる。その1つは岐阜・長野県境の御岳山を通り北西南東にのびているクラスターで深さは30 km以浅である。2つ目は神奈川・山梨県境の丹沢山地西部のクラスターである。局部的には小円内に分布しているが、隣接する地震も含めると北西南東にのびているともいえる。深さはいずれも30 km以浅である。3つ目は伊豆の川奈崎付近のクラスターで深さはこれも30 km以浅である。第4のクラスターは東京湾北部のもので深さは30 kmを超えるものもある。これ等ほどは顕著でないが静岡県焼津を通り北西南東に並ぶクラスターもある。特に10月の5個の地震の震央は殆んど一直線に並びその延長線は伊豆の南端に当たる。これは茂木の主張する断層と調和的である。これらの地震の中には30 kmを超える深さのものもある。



STATION		LAT. (°N)	LONG. (°E)	HEIGHT (KM)
ASG	MINAMIASHIGARA	35.3138	139.0279	0.3860
CMT	CHIKAMATA	34.9722	138.2488	0.0510
ENZ	ENZAN	35.7360	138.8053	0.8070
HRM	KAWASAKI	35.5506	139.6792	-0.5360
ICH	ICHIHARA	35.4009	140.1768	-0.1460
IWK	IWAI-KITA	35.0981	139.8714	0.
IWM	IWAI-MINAMI	35.0802	139.8646	0.
IWT	IWATSUKI	35.9258	139.7381	-3.5010
JIZ	NAKAIZU	34.9129	138.9968	0.2630
MIN	MINEOKA	35.1019	139.9908	0.1000
MOR	MORIYA	35.9425	140.0044	0.0010
MSK	MISAKUBO	35.1934	137.9391	0.7540
NDZ	NODAZAWA	34.9605	138.2797	0.0820
MZW	MATUZAWA	34.9512	138.2467	0.1090
NSI	NISHIIZU	34.7870	138.8040	-0.4220
OHR	OHIRA	36.3600	139.6924	0.2500
OKB	OKABE	34.9500	138.2538	-0.0300
SHM	SHIMOHSA	35.7934	140.0238	-2.2770
SMB	SHIMIBE	35.4157	138.4834	0.2020
TNR	TENRYU	34.9078	137.8852	0.0660
TYM	TATEYAMA	34.9708	139.8481	0.0300
YKI	YOKAICHTBA	35.7185	140.5088	-0.1420

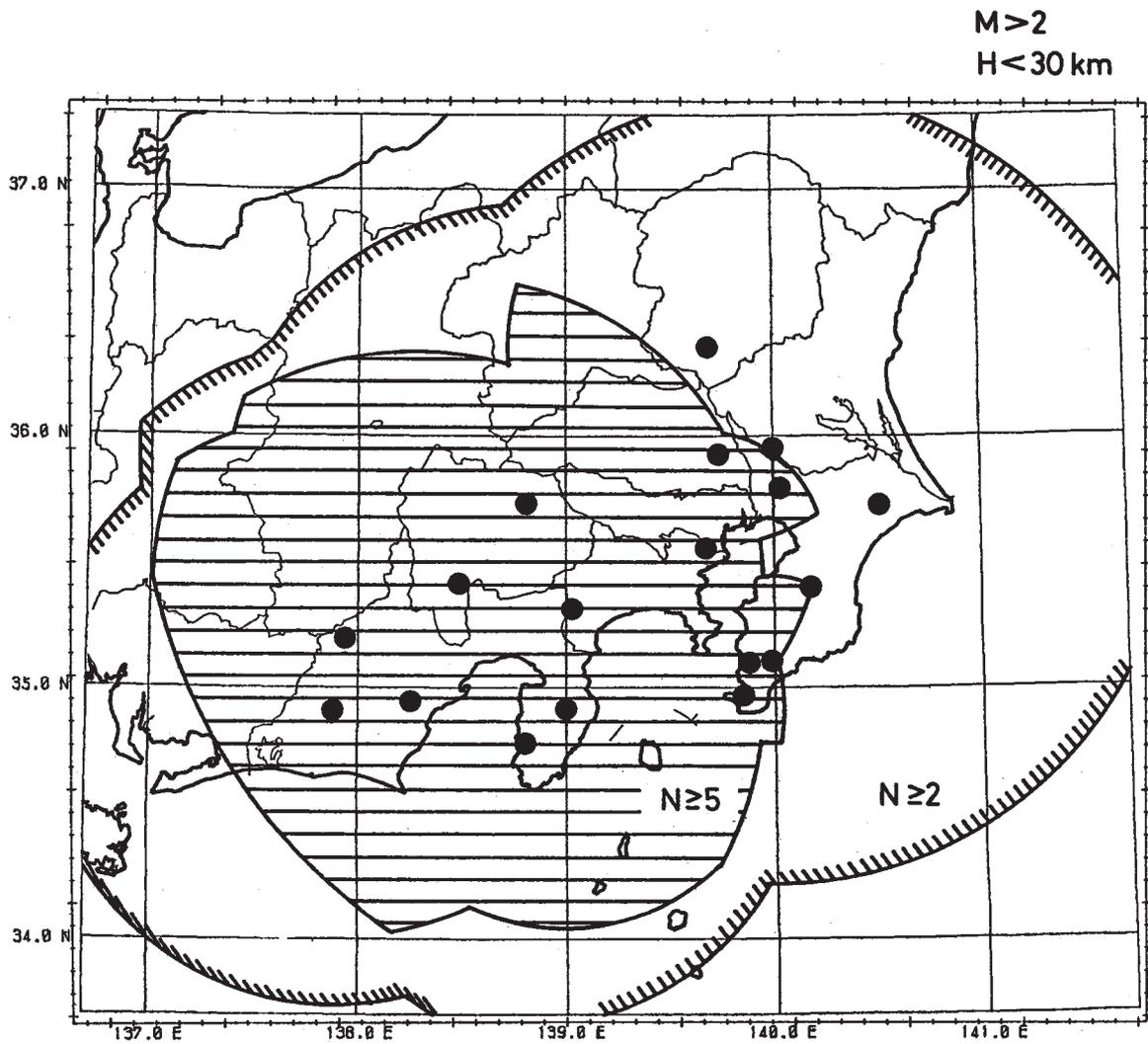
第1図 関東・東海地域における防災センターの観測点

Fig. 1 The NRCDP stations in the Kanto-Tokai area.



第 2 図 日別地震回数

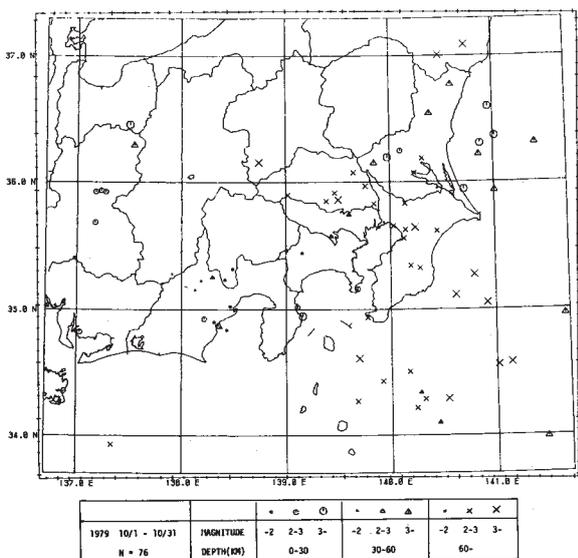
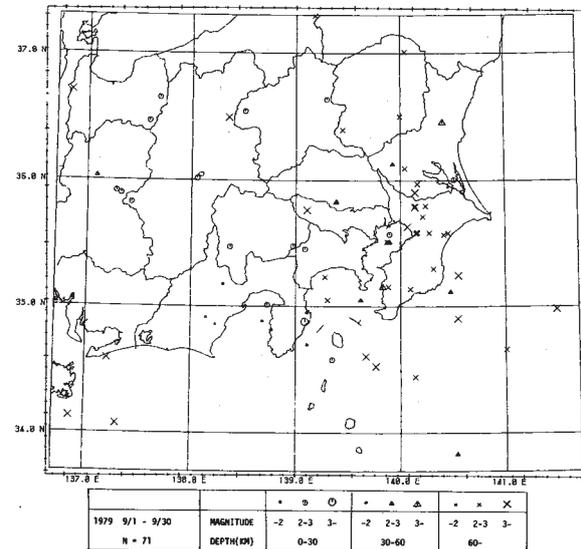
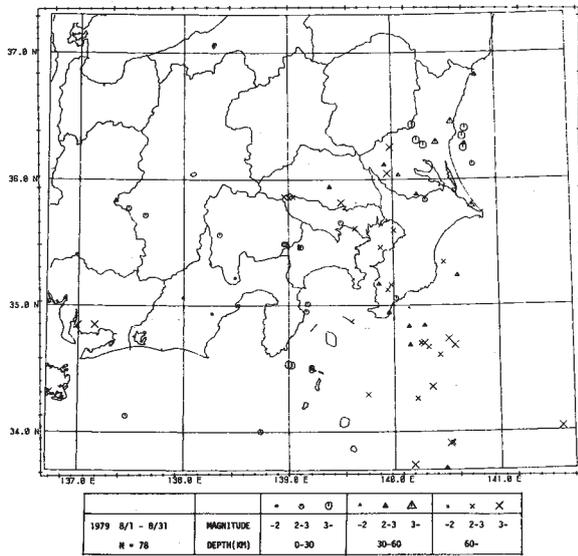
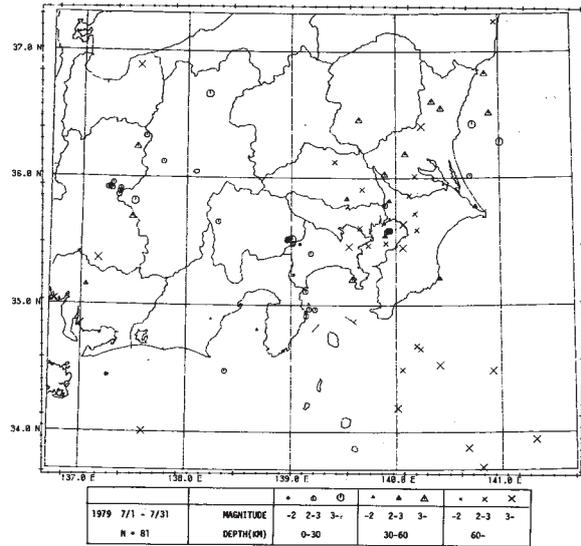
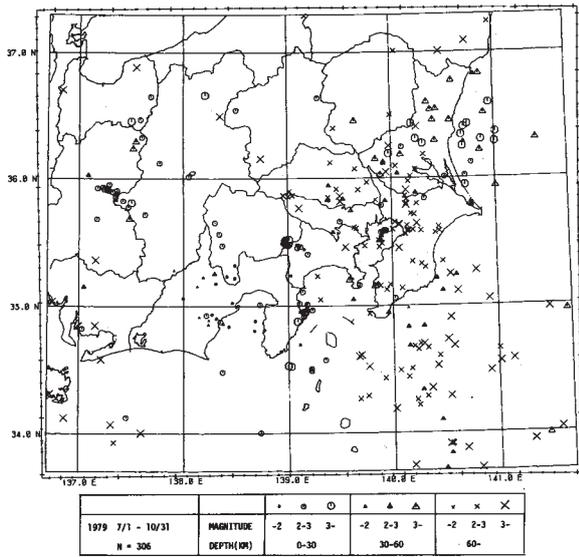
Fig. 2 Daily frequency of earthquakes.



第3図 地震の検測される範囲

マグニチュード $M > 2$, 震源の深さ $H < 30$ kmの場合, N は検測する観測点の数

Fig. 3 Areal extent where earthquakes are detected. N is the number of stations which detect earthquakes with magnitudes greater than 2 and focal depths less than 30 km.



第4図 防災センター観測網による震源分布

Fig. 4 Hypocentral distribution determined by the NRCDP network.